

新聞に国公立大2次試験の志願状況が掲載されると、半世紀を経ても自分の受験生時代を思い出す。1月23日付の備中版には「合格願い『落ちない葉』」の記事。新見市哲西町地区でまちづくりに取り組むNPO法人が、地元の中学3年生に高校合格祈願のお守りを贈ったというものだ。葉が枯れても、枝に付いたまま落ちないヤマコウバシの葉を、ラミネート加工して作ったそつだ。受験生を応援するゲン担ぎが多く登場するのも、この季節。風物詩ともいえる。

高3の冬、文具店の息子だった同級生が合格鉛筆をクラスメートに配った。六角鉛筆に

## 山陽新聞を~~読~~んで

川崎医科大学付属病院長 永井敦



# 思い出す受験生時代

書かれた「合格祈願」の社があり、初詣には仲間の合格を願った。お年寄り易く学成り難し。こんなんで本当に合格できるのか？ ゲン担ぎにもならない文言に、ブー

受験日が迫った2月 中旬の夜。突然、寮の 火災報知器が鳴る。誤作動だろうと思ひ勉強を続けたが、廊下が次

インクの嵐。人のよい彼は、鉛筆を作り直してく したが、その格言を覚え いない理由は、不合格が分 かったその日に、鉛筆を 捨てたからだ。予備校で医学部に進路 変更したものの、不安は あった。寮の近くに紫式 部もお参りしたという神

「山陽新聞を 読んで」は月2回、 日曜日に掲載しま す。